

移民・難民統合における行政と NPO

—旧東ドイツ・ハレ（ザーレ）市の事例—

佐藤雪野

1. はじめに

昨年の本論集にて、筆者は、藤田恭子との共著論文「旧東ドイツ地域・ハレ市における移民・難民統合と教育」ⁱを上梓した。藤田と筆者及び石川真作、大河原知樹、寺本成彦は、科学研究費補助金を得て、平成 29 年度より 4 年間の予定で、ドイツ連邦共和国ザクセン＝アンハルト Sachsen-Anhalt 州ハレ/ザーレ Halle/Saale 市における難民受入れの現状と課題を検討し、毎年実地調査を実現しているⁱⁱ。また、石川以外の 4 名が参加した別のプロジェクトにより、その前年にも大河原と藤田がハレ市における実地調査を行った。

2015 年「ヨーロッパ難民危機」と呼ばれるように、この年、ヨーロッパには前年の 2 倍以上の難民が押し寄せ、庇護申請者数は 120 万人を数えたⁱⁱⁱ。シリア情勢悪化に伴う中東からの難民が注目されたが、難民の出身国はそれだけではない。また、ドイツのアンゲラ・メルケル Angela Merkel 首相は、当初難民受け入れに寛大で、2015 年 8 月 25 日、シリア難民へのダブリン協定不適用を決め、2015 年 9 月 4 日には、ハンガリーとオーストリアとの協議の末、ダブリン協定に関わらず、ハンガリーに滞留している未登録の難民の受け入れを決定した^{iv}。ダブリン協定では、難民は最初に入国した EU 加盟国（少数の非加盟国を含む）で庇護申請登録をしなければならないことになっている。ハンガリー議会がセルビアとの国境にフェンスを築くことを 2015 年 7 月 6 日に決定した^vことや、ハンガリーに難民が滞留したことが問題になったが、中東から陸路で難民が移動した場合、ギリシア、ブルガリア、ルーマニアなどの EU 加盟国を経由しないとそもそもハンガリーには到達できないので、何らかの不法越境が途中で行われたと考えられる。

ドイツ連邦共和国は、ナチ時代のユダヤ人などに対する迫害への反省と、迫害により生じた多くの難民が諸外国に受け入れられたことを鑑み、憲法に相当するドイツ基本法第 16a 条第 1 項で「政治的に迫害される者は、庇護権を享有する Politisch Verfolgte genießen Asylrecht.」と規定しており、それが難民受け入れの根拠となっている^{vi}。また、メルケル首相が、人権問題を抱え、多くの国民が旧西ドイツへ越境した、旧東ドイツ出身であることも、難民受け入れ方針に影響を与えた可能性がある。

結果的にドイツにおける庇護申請者数^{vii}は、2015 年の 476,649 名（うち一次申請者 441,899 名）から難民危機の翌年の 2016 年には 745,545 名（うち一次申請者 722,370 名）に増加した。その後、政策の修正や EU 内での調整もあり、2017 年には 222,683 名（うち一次申請者 198,317 名）に減少した。その後も減少傾向にある。出身国については、2019 年 9 月のデータでは、約 4 分の 1 がシリアである^{viii}。

さて、ハレ市を事例としてとりあげる意義について説明しよう。ハレ市のある旧東ドイツは、体制転換から 30 年、ドイツ統一から 29 年たった現在においても、旧西ドイツとは異なった政治的・経済的・社会的環境にある。旧東ドイツの失業率の高さや旧西ドイツとの経済格差は、住民

の不满を呼び、極右、ネオナチの温床となり、難民排斥などの事件も、旧東ドイツに目立っている^{ix}。選挙結果にも極右勢力の躍進が見られる。しかし、調査開始時点においては、ザクセン＝アンハルト州では、隣接のザクセン Sachsen 州と異なって、難民排斥の動きも余り目立たず、ハレ市においても近隣の大都市ライプツィヒ Leipzig 市（ザクセン州）に目立っていたような極右の勢力は弱かった。旧東ドイツと難民問題を考える場合、否定的な側面ばかりがとらえられがちであるが、積極的に難民に関与し、成果をあげている事例も検討する意義があろう。また、人口の3分の1から4割が移民の背景を持った人々から成ることも稀ではない旧西ドイツの大都市においては、移民の統合に関するプログラムも充実し、それに関する研究も多い^x。しかし、旧東ドイツにおいては、外国人としては社会主義諸国からの契約労働者や留学生がいたものの、移民統合プログラムに正面から向かい合う必要ができたのは、近年の難民の流入がきっかけといえる。旧東ドイツ社会は、日本と同様、外国人に対して閉鎖的な社会であったといえ、その旧東ドイツのハレ市の試みが成功事例となれば、今後移民労働者を迎えようとしている日本にとってもよい参考事例となるだろう。ハレ市の人口と外国人（外国籍）住民の割合については、下記表1を参照していただきたい。

表1：ハレ市人口統計^{xi}

年末	住民		
	計	うち外国人	
		数	パーセント
2000	246.450	7.672	3,1
2001	241.710	8.312	3,4
2002	237.951	8.643	3,6
2003	238.078	9.169	3,9
2004	237.093	9.487	4,0
2005	235.959	9.415	4,0
2006	233.874	9.191	3,9
2007	232.267	9.114	3,9
2008	230.900	8.938	3,9
2009	230.377	8.903	3,9
2010	230.831	8.994	3,9
2011	231.639	9.371	4,0
2012	232.535	9.946	4,3
2013	232.705	10.536	4,5
2014	233.552	12.032	5,2
2015	238.321	17.453	7,3
2016	239.738	19.741	8,2
2017	241.093	22.198	9,2
2018	241.333	23.225	9,6

しかし、残念ながら、多文化共生社会としてのハレ市を揺るがすような事件も昨今起きている。これについては、結びで述べることにする。

2. 現在のハレ市の政治的状況

ハレ市は、最初の文書記録が806年に遡る歴史的都市で、塩の町、また、作曲家ヘンデルの生地としても知られる。市の標語は「世界に開かれた都市 die weltöffene Stadt」で^{xii}、ザクセン＝

アンハルト州も、「世界に開かれた」ということをうたっている^{xiii}。州関連の政治状況は昨年と変わらないが、市の政治状況は大きく変動している。

ハレ市長は任期7年で2019年11月30日までが任期だった現市長は、社会民主党 SPD に所属していたこともあった^{xiv}が、現在は無所属のベルント・ヴィーガンツ Bernd Wiegand である。1957年生まれで、旧西ドイツ・ニーダーザクセン Niedersachsen 州のブラウンシュヴァイク Braunschweig 出身だが、ハレ=ヴィッテンベルク・マルティン=ルター大学 Martin-Luther-Universität Halle-Wittenberg で博士号を得た。任期満了前の2019年10月13日に市長選が行われ、ヴィーガンツや泡まつ候補も含め8名が立候補した^{xv}。投票率42.4%と低調だったが、有効投票79,883票中、ヴィーガンツは35,419票(44.3%)で第1位となったものの過半数に及ばず、第2位のヘンドリク・ランゲ Hendrik Lange (20,104票、25.2%)と10月27日に決選投票を行うことになった。1977年ザクセン=アンハルト州クヴェードリンブルク Quedlinburg 生まれのランゲは左派党 Die Linke の州議会議員で市議会議員でもある。市長候補としては社会民主党と緑の党 Grüne にも支持された。第3位は18,310票(22.9%)を得たアンドレアス・ジルバーザック Andreas Silbersack (自由民主党 FDP、キリスト教民主同盟 CDU が支持)であった。9月末の世論調査では、まだ投票先を決めていない回答者が56%いたが、決めていた回答者のうち、52%がヴィーガンツ支持だった^{xvi}。選挙結果からは、9月末時点での投票先未決定者がランゲやジルバーザックを支持した割合が高かったといえるが、後述のテロ事件の影響があったかもしれない。決選投票については、ランゲを支持する政党以外の各政党は、特定の候補者の支持を表明しなかった^{xvii}。従って、3位のジルバーザックの支持者が2位のランゲ支持に回って、ランゲが逆転する可能性は小さく、実際10月27日に行われた決選投票では、結果を予想したのか投票率は35.8%とさらに下がり、ヴィーガンツが41,273票(61.4%)を獲得して当選した。ランゲは25,922票(38.6%)であった。この結果、ハレ市における移民・難民の統合政策は、市議会の情勢に影響を受けつつも、この先7年間、現在の市長の積極的な姿勢を受け継ぐ可能性が強まった。

2019年5月26日に選出された任期5年のハレ市議会の構成は以下の表の通りである。

表2：ハレ市議会の構成^{xviii}

政党	議席数	得票率 (%)	前回議席数	前回得票率 (%)
左派党DIE LINKE	10	17,78	14	25,08
キリスト教民主同盟CDU	10	17,42	14	25,12
緑の党GRÜNE	9	16,28	6	10,05
ドイツのための選択肢AfD	8	13,99	3	4,58
社会民主党SPD	6	11,27	11	19,14
大事なことハレHauptsache Halle ^{xix}	4	6,87	—	—
自由民主党FDP	3	5,37	2	4,23
同朋市民MitBürger ^{xx}	3	4,46	3	5,60
政党Die PARTEI ^{xxi}	2	3,42	1	0,87
自由選択者FREIE WÄHLER ^{xxii}	1	2,09	0	0,68
ドイツ国家民主党NPD ^{xxiii} (e)	0	0,23	1	1,22
新フォーラム ^{xxiv} ハレNEUES FORUM HALLE	—	—	1	1,78
計:	56		56	

前回2014年選挙と前々回の2009年選挙では、議席数に大きな変動はなかったが、今回は左派党、キリスト教民主同盟、社会民主党が後退し、緑の党、「ドイツのための選択肢 AfD」、市民政党な

どが議席を増やした。特に社会民主党は 11 議席から 6 議席へと半分近くまで減らし、第 3 党から第 5 党に陥落した。逆に「ドイツのための選択肢」は 3 議席から 8 議席と 3 倍近くになり、第 5 党から第 3 党になった。この極右政党「ドイツのための選択肢」の躍進は、今後のハレ市の難民・移民統合政策においてもネガティブな影響を及ぼす危険がある。

しかし 10 月の市長選挙では、右派の有力候補者は現れなかった。また、市議会議員選挙結果からも左派党・社会民主党・緑の党の候補者ランゲが、自由民主党・キリスト教民主同盟の候補者ジルバーザックを上回った結果は納得できる。

さて、ハレ市の難民を取り巻く状況は、ザクセン＝アンハルト州の政策とも大きく関連しているため、州の政治状況も再度確認しておこう。

州首相は 2011 年就任のキリスト教民主同盟のライナー・ハーゼロフ Reiner Haseloff で、ある^{xxv}。2016 年までは、キリスト教民主同盟と社会民主党が、2016 年からは更に緑の党が政権に参加している。ハーゼロフは、1954 年、現ザクセン＝アンハルト州のビュルツイヒ Bülzig 生まれで、ドレスデン工科大学 Technische Universität Dresden とベルリン・フンボルト大学 Humboldt-Universität zu Berlin で学んだ。キリスト教民主同盟へは、旧東ドイツ時代に、東ドイツの組織へ入党している。

2016 年 3 月 13 日に選出された州議会の構成は以下のとおりである^{xxvi}。キリスト教民主同盟 30 議席、左派党 16 議席、社会民主党 11 議席、緑の党 5 議席、「ドイツのための選択肢」25 議席の計 87 議席。与党で 46 議席を占める。与党の過半数確保のために新たに緑の党が連立に加わった。任期は 5 年である。2011 年の前回選挙と比較すると、「ドイツのための選択肢」の大躍進により、各党が議席を減らしたが、その状況は、特に左派党と社会民主党に顕著であった。

野党とはいえ、第二党としての「ドイツのための選択肢」の議会内での発言権が、ハレ市を含めたザクセン＝アンハルト州での難民支援対策に影響を及ぼすようになってきている。ハレ市市議会の構成と比較すると、ハレ市では州議会より左派党の勢力が強いことがわかる。

2019 年秋には、3 つの新連邦州（旧東ドイツ）で州議会選挙が行われた。9 月 1 日に実施されたブランデンブルク Brandenburg 州、ザクセン州、10 月 27 日に行われたチュービンゲン Tübingen 州である。3 州の議会の議席配分は以下の通りである。比較のためにザクセン＝アンハルト州の議席配分を併記した。

表 3：各州議会の構成^{xxvii}（第 1 党に下線）

政党	ブランデンブルク州	ザクセン州	チューリンゲン州	ザクセン＝アンハルト州
社会民主党	<u>25</u>	10	8	11
ドイツのための選択肢	23	37	22	25
キリスト教民主同盟	15	<u>46</u>	21	<u>30</u>
左派党	10	14	<u>29</u>	16
緑の党	10	11	5	5
自由民主党	—	—	5	—
ブランデンブルク市民運動連合/自由選挙者BVB/FW	5	—	—	—
計	88	118	90	87

各州で第 1 党は異なるものの、第 2 党に「ドイツのための選択肢」が躍進していることが目立つ。既存政党や政権への不満票が、旧東ドイツでは「ドイツのための選択肢」へ流れている傾向

がうかがえる^{xxviii}。この傾向が 2021 年の次期ザクセン＝アンハルト州議会選挙まで続くかどうかは未知数である。また、各政党の議席配分状況は、ザクセン＝アンハルト州とザクセン州で共通している。

3. 統合における行政の役割：ハレ市移民統合専門官（Beauftragte für Migration und Integration）事務所など

3-1. ハレ市移民統合専門官事務所

「世界に開かれた都市」を標榜しているハレ市は、その名に恥じず、移民・難民の受け入れや多文化共生の実現に、行政も力を入れている。

旧西ドイツで 44 年前から開催が始まった連邦及び州レベルでの異文化週間（本年 2019 年のモットーは「共に生きる、共に育つ Zusammen leben, zusammen wachsen」）にも、ハレ市は 1993 年から参加している。2019 年は 9 月 23 日から 30 日まで市の中心部市役所前のマルクト広場を中心に様々な行事が開催された。これは、マジョリティ社会の市民にとって異文化を知り、移民との交流を図るよい機会になっている^{xxix}。この行事の行政側の窓口になっているのが、ハレ市移民統合専門官事務所である。ここが、ハレ市行政の移民統合の所管部局であり、専門官は市長直属の役職である。同様な役職は連邦及び州レベルにも存在し、他の都市にも存在する。

ハレ市の専門官の重点活動領域は以下の通りである^{xxx}。

- (1) 統合と異文化間共生の促進
- (2) 市行政当局内外の交流・協力の仲介
- (3) ハレ市全域で提供されるサービスのコーディネートととりまとめ
- (4) 助成金に関する取り決め——州行政庁 Landesverwaltungsamt: LVwA、連邦移民難民庁 Bundesamt für Migration und Flüchtlinge、ザクセン＝アンハルト州外国人専門官 Ausländerbeauftragte vom Land Sachsen-Anhalt、連邦政府移民難民統合専門官 Beauftragte der Bundesregierung für Migration, Flüchtlinge und Integration 間での取り決め
- (5) ハレ市統合ネットワークのコーディネートと施行
- (6) ドイツ人と移民及び外国人に固有な問題を扱う関連施設との間の仲介
- (7) 移民組織の支援と仲介
- (8) プロジェクトに関連した社会施設配置計画
- (9) 人種的背景による差別事例の紛争処理
- (10) ハレ市における移民に関する事柄について有権者への情報提供
- (11) 州外の諸都市のネットワークとの協力
- (12) 広報活動

現在の専門官は、ソーシャル・ワーカーで社会教育専門家であるペトラ・シュノイツァー Petra Schnetzler（1958 年生まれ）で、1977 年からハレ市に奉職しているベテランである。市長直属の役職・組織のため、活動には市長の政策・意思が大きく反映することになる。

ハレ市長ヴィーガントが市長 1 期目に移民・難民統合関係で実現した項目としては、

- (1) 移民統合サービスセンター（Dienstleistungszentrum Migration und Integration: DLZMI）の設立
- (2) ハレの学校における移民を背景とする児童の言語補助に関する州の課題の引き受け
- (3) ハレ市に割り当てられた庇護請求者を公営施設に閉じ込めずに分散して収容したこと

がある^{xxxi}。2 期目の計画として、選挙時に、連邦の新難民受け入れプログラム「チームでの新

しい出発 Neustart im Team」を支持し、特に保護を必要とする人々のための保護者を見出すことを行うとしている^{xxxii}。ヴィーガントが再選されたことで、1期目に開設された組織やプログラムが継続され、新たに拡大されていくことになった。人事面も変化がないものと見込まれる。

市長再選を受けての組織替え前の移民統合サービスセンターには二つの領域の任務があった。一つは移民統合専門官の指導のもと、寄付やボランティアのコーディネートを行い、統合ネットワークを強化すること、もう一つは難民が民間の住居に住むことの支援である^{xxxiii}。

ハレ市が難民収容施設に難民を集中的に長期間住まわせることなく、分散して受け入れたことは、ハレ市の難民への対応において特徴的なことである。これが市民とともに難民を受け入れ、統合していく方針の可視化にもつながり、難民自身の能動的な統合を促すことにもなっている。もちろん、難民の施設での集住には、難民へのサービスを低コストで集中して行いやすいという利点もあるが、難民側の精神的負担を考えると、分散した居住には利点が多い。ただし、その場合、難民の「見守り」やサービスが個々に滞りなく提供されるための行政の負担が大きく、市民の協力も必要になる。このために、移民統合サービスセンターが存在したのだが、2019年、この組織は統合サービスセンターへと改組され、移民に限らず、様々なターゲットグループの統合を図るセンターとなり、それぞれターゲットグループごとにネットワークを形成している^{xxxiv}。

3-2. 移住と統合のためのネットワーク Netzwerk für Migration und Integration

前節のサービスセンターの任務の中に登場したネットワークである^{xxxv}。NPO等と行政のネットワーク化を目的としている。ハレ市では、2002年から活動しているが、ザクセン＝アンハルト州内では2001年、デッサウ Dessau で最初に設立された。

2016年現在ハレでは、95団体の約240人がネットワーク活動している。

ネットワークの運営委員会は、労働専門部会、ドイツ語専門部会、社会生活専門部会、移民組織専門部会、移住専門部会、ボランティア・寄付専門部会と外国人顧問会の代表から構成され、年に2～3回、ハレ市移民・統合専門官を議長として開催されている。

労働専門部会は、労働市場や職業訓練を活動領域としているが、そこで特徴的なことは、市、労働庁、職業センターの移民専門官と密接な関係を結んで、定期的に個人向けの相談を行っていることである。

また、ドイツ語専門部会は、連邦移民難民庁の統合コースに入れられない移民・難民の語学教育にも関与している。その際、連邦移民難民庁や職業センターと連絡して、統合コースの空席状況の情報も得ている。2017年にハレで開催された連邦移民難民庁公認の統合コースは13件あった。

次項以下にあげるNPOなどの諸団体も、このネットワークに属しており、行政と市民をつなぐ機構としてネットワークが重要な役割を果たしていることがわかる。

3-3. 外国人顧問会 Ausländerbeirat^{xxxvi}

1999年8月3日から活動を開始した外国人顧問会はハレ市により設置された。会のメンバーは、ハレ市在住外国人による選挙で選出される。直近の2017年11月選挙では投票率6.7%にとどまったが、8人のメンバーが選出された。ボランティアで、移民諸団体や行政と密接に連携して、外国人住民を他の住民と対等化するために活動している。

4. 移民団体や NPO など

4-1. ハレ移民団体連盟 VeMo: Verband der Migrantenorganisationen Halle (Saale) e.V.^{xxxvii}

2015年に設立され、現在ハレ市の11の移民団体と9人の個人会員から成る移民団体の連合体である。アラブ系、モンゴル系、ベトナム系、ロシア系、イラン・アフガニスタン系、ブルキナファソ系、ギニア系などの団体で、ザクセン＝アンハルト州全体で活動している団体も目立つ。

移民に資金やオフィスなどを提供するハウス・オブ・リソース House of Resources も VEMO のプロジェクトとして運営された。このプロジェクトは、2016年9月から2019年8月までは連邦移民難民局のモデルプロジェクトとして実施され、移民組織やその他の複数社会実現のための活動のためのリソースを供給した。資金援助額は最大4,000ユーロまでで、事務室、会議室、コンピュータの使用機会なども提供した。

4-2. ボランティア＝エージェンシー Freiwilligen-Agentur Halle-Saalkreis e.V.^{xxxviii}

1999年から活動しており、移民統合に限らず、様々なボランティア活動を仲介する団体だが、現在は統合のための活動が主要な活動領域になっている。

具体的な活動には、

- (1) 「統合のための活動」調整所 Koordinierungsstelle „Engagiert für Integration“ の運営
- (2) ウェブ・サイト「ハレにようこそ Willkommen in Halle」^{xxxix} の運営
- (3) ウェルカム＝トレフ WELCOME-Treff^{xl} の運営

などがある。

ウェルカム＝トレフは、市民・難民・移民の交流・出会いの場として運営され、カフェが併設され、語学教室、文化活動などを行っている。移民の「先輩」による「後輩」の援助を仲介するほか、ドイツ人女性ボランティアによる無料ドイツ語講座などもあり、マジョリティのボランティアだけでなく、移民のボランティアも取り入れられているのが効果的である。2019年11月現在週2回行われている女性のためのドイツ語教室では、週1回は託児も確保されている。2020年1月に新しい場所に移転予定である。

「統合のための活動」調整所を共同運営しているハレ市、プロテスタント団体とともに年2回、ボランティアの会合も開催している^{xli}。

2019年5月で15回目の開催になる「ボランティアの日」はボランティア祭りで、市民にボランティアを紹介し、身近なものとして参加する機会を与えるものになっている。

以上のような、行政と移民組織や NPO をネットワークが仲介する形で、ハレ市では、難民・移民統合が進められている。その背景として、ハレ市がマルティン＝ルター大学ハレ＝ヴィッテンベルク大学の大学都市であることがあげられる。マルティン＝ルター大学は、1817年、ヴィッテンベルク大学（1502年創立）とハレ大学（1694年創立）が統合し、1933年に現名称になった。9学部で学生数19,901人（うち留学生1,625人）、教授数344人である^{xlii}。この学生がボランティアの担い手となり、寛容性の源ともなっている。

また、実際のボランティア活動においては、年配の女性が活発なことが印象的であった。行政とサービスの受け手となる難民・移民団体とボランティアなどの NPO が両輪となり、ネットワークが車軸となることで、統合の実現に向かっている。

5. 結び

筆者らが、ハレ市をフィールドに選んだ時、旧東ドイツにおける難民・移民統合政策の一定の成功例としてハレ市を取り上げ、その長短を検討することで、日本の難民・移民政策に利する成果が得られると期待した。しかし、最初に述べたように昨今のハレ市では気がかりな事件も起こっている。

2018年、ハレ＝ノイシュタット Halle-Neustadt のイスラム文化センター Islamisches Kulturzentrum (モスク) で何度も襲撃事件など^{xiii}があり、負傷者が出た。これは、難民・移民統合を目指しているハレ市にとってはゆゆしき問題である。

また、市長選直前の2019年10月9日には、シナゴグを襲おうとしたテロ事件が起こり、無関係の2名の市民が死亡した。市外の男の単独犯で、男は反ユダヤ的思想を持っていた。直接難民・移民に向けられた犯罪ではないが、ハレ市の多様性への挑戦であり、ナチのユダヤ人迫害を深く反省し、思いを寄せているドイツ人にとって衝撃の強いものであった。また、事件直後、ソーシャルメディアなどでアラブ系犯行説が流布された^{xiv}時には、新たな逆行が危惧された。

しかし、テロ事件を受け、官民の追悼行事等が行われ^{xv}、ドイツにおける多様性が確認されたことは、ドイツにとってもハレ市にとっても多文化共生の道は後戻りできないもので、改めて市民の多くが共生を支持していることがわかる。むしろ、市民の共生支持は強まったようにも思われる。襲撃事件から1か月半以上たった11月末になっても、シナゴグ前には献花、献灯、メッセージカードなどが置かれ、第2現場となった飲食店には恒常的な追悼コーナーが設けられていた。全体としてハレ市の移民・難民統合への道は引き続き官民の支持を受け続け、更に民主主義を推進し、反人種差別主義や反・反ユダヤ主義に向かって発展していることに安堵した。今後もハレ市の状況に注意をはらい続けていきたい。

注

- i 『国際文化研究科論集』第26号(2018年)、43-54頁。
- ii 本稿は科学研究費補助金・基盤研究(B)「EUにおける難民の社会統合モデル—ドイツ・ハレ市の先進的試みの可能性と課題—」(研究代表者:佐藤雪野、研究分担者:石川真作、大河原知樹、寺本成彦、藤田恭子)の研究成果の一部である。
- iii カトリクス・ヴァイトール・ド・ヴァンダン(太田佐絵子訳)『地図とデータで見る移民の世界ハンドブック』原書房、2019年、52頁。
- iv „Wien rechnet mit 10.000 Flüchtlingen aus Ungarn“, *SPIEGEL ONLINE* 5/9/2015 (<https://www.spiegel.de/politik/ausland/ungarn-fluechtlinge-duerfen-nach-deutschland-und-oesterreich-a-1051574.html> 最終閲覧:2019年10月25日)
- v 「ハンガリー、移民阻止フェンス設置へ セルビア国境175キロ」AFPBB News, 7/7/2015 (<https://www.afpbb.com/articles/-/3053845> 最終閲覧:2019年10月25日)
- vi 庇護制度については、渡邊互「ドイツにおける難民政策の課題とその憲法的意義」『法政治研究』第3号(2017年)123-145頁(https://www.jstage.jst.go.jp/article/kanhouseiken/3/0/3_123/_pdf 最終閲覧:2019年10月25日)参照。
- vii Bundesamt für Migration und Flüchtlinge, *Aktuelle Zahlen*, September 2019, S.5 (http://www.bamf.de/SharedDocs/Anlagen/DE/Downloads/Infothek/Statistik/Asyl/aktuelle-zahlen-zu-asyl-september-2019.pdf?__blob=publicationFile 最終閲覧:2019年10月25日)
- viii *Ibid.*, S.9.
- ix 辻映史「ケムニッツ、あるいはドイツ社会の和解のレジリエンスと『憂慮する』市民たち」2019年4月22日 (<https://synodos.jp/international/22563> 及び <https://synodos.jp/international/22563/2> 最終閲覧:2019年10月18日)

- x 例えば、ウーベ・カルステン（伊藤和男訳）「ドイツにおける移住者と移民の状況に寄せて」天理大学 EU 研究会編『グローバル化時代の EU 研究—環境保護・多文化共生の動向—』ミネルヴァ書房、2010 年、213-221 ページ。同論文によれば、「移民という背景をもつ人」はシュトゥットガルト、フランクフルトで 40%、ニュルンベルクで 37%。（213 ページ）
伊藤亜希子「ドイツにおける参加を通じた移民の統合」近藤孝弘編『統合ヨーロッパの市民性教育』名古屋大学出版会、2013 年、216-230 ページ。
- xi <http://www.halle.de/de/Verwaltung/Statistik/Bevoelkerung/Einwohner-mit-Hauptw-06101/>（最終閲覧：2019 年 6 月 29 日）
- xii <http://www.halle.de/de/Verwaltung/Zielgruppen/Auslaender-und-Migranten/>（最終閲覧：2018 年 10 月 24 日）
- xiii <https://europa.sachsen-anhalt.de/europa-und-internationales/>（最終閲覧：2018 年 10 月 24 日）
- xiv <https://bernd-wiegand.de/person/lebenslauf/>（最終閲覧：2018 年 10 月 24 日）
- xv 選挙結果については、決選投票も含めて <http://www.halle.de/de/Verwaltung/Wahlen/Wahlarchiv/Oberbuergermeisterwa-07464/> 最終閲覧：2019 年 12 月 12 日）
- xvi Skrzypczak, Dirk und Kai Gauselmann, „Repräsentative MZ-Umfrage: Wer hat zwei Wochen vor der OB-Wahl in Halle die Nase vorn?“, *Mitteldeutsche Zeitung* 28/9/2019 (<https://www.mz-web.de/halle-saale/ob-wahl/repraesentative-mz-umfrage-wer-hat-zwei-wochen-vor-der-ob-wahl-in-halle-die-nase-vorn--33235816> 最終閲覧：2019 年 10 月 25 日)
- xvii Goldbecher, Tanja, „Qual der Stichwahl: Warum manche Parteien und Wählergruppen keine Wahlempfehlung geben“, *Mitteldeutsche Zeitung*, 24/10/2019 (<https://www.mz-web.de/halle-saale/ob-wahl/qual-der-stichwahl-warum-manche-parteien-und-waehlergruppen-keine-wahlempfehlung-geben-33356904> 最終閲覧：2019 年 10 月 25 日)
- xviii <https://www.halle.de/wahlergebnisse/gw2019sitzv.html>
<http://www.halle.de/de/Verwaltung/Wahlen/Wahlarchiv/Kommunalwahl-2014/>
<http://www.halle.de/de/Verwaltung/Stadtrat/Stadtrat/>
（以上最終閲覧：2019 年 6 月 29 日）より作成。
- xix 無党派の市民連合、選挙初参加。
- xx 市民政党。統一会派。
- xxi 風刺政党。
- xxii 保守系小党。
- xxiii Nationaldemokratische Partei Deutschlands ネオナチ政党。かつてのドイツ領の回復を目指す。
- xxiv 東ドイツ民主化運動の中で生まれた政治団体の残照。
- xxv <http://reiner-haseloff.de/zu-meiner-person/>（最終閲覧：2018 年 10 月 24 日）
- xxvi <https://www.statistik.sachsen-anhalt.de/wahlen/lt16/index.html>（最終閲覧：2018 年 10 月 24 日）
- xxvii 選挙結果については、
<https://www.wahlen.info/landtagwahl-brandenburg-2019/>
<https://www.wahlen.info/landtagwahl-sachsen-2019/>
<https://www.wahlen.info/landtagwahl-thueringen-2019/>
（以上最終閲覧：2019 年 12 月 12 日）
- xxviii 2018 年に行われた旧西ドイツのバイエルン Bayern 州とヘッセン Hessen 州の州議会選挙では、「ドイツのための選択肢」と緑の党が躍進した。（<https://www.landtagwahl.bayern/ergebnis/> 及び <https://www.wahlen.info/landtagwahl-hessen/> 最終閲覧：2020 年 1 月 31 日）
- xxix <http://www.halle.de/de/Kultur/Freizeit?RecID=555>（最終閲覧：2019 年 9 月 15 日）
- xxx <http://www.halle.de/de/Verwaltung/Verwaltungsorganisation/Geschaeftsbereich-Ob-05840/Beauftragte-fuer-Mig-06089/>（最終閲覧：2020 年 1 月 11 日、2020 年 1 月 22 日現在リンク切れ）
- xxxi <https://bernd-wiegand.de/wahlprogramm-2019/bildung/>（最終閲覧：2020 年 1 月 11 日）
- xxxii 同上。
- xxxiii <http://www.halle.de/de/Verwaltung/Verwaltungsorganisation/Geschaeftsbereich-Ob-05840/Dienstleistungszentr-08825/>（最終閲覧：2019 年 9 月 15 日、12 月 12 日現在リンク切れ）
- xxxiv 2019 年 11 月 25 日、ハレ市担当者よりの聴き取り。

xxxv 以下については

<http://www.halle.de/de/Verwaltung/Zielgruppen/Auslaender-und-Migranten/Netzwerk-fuer-Migrat-07131/Netzwerk/>
(最終閲覧：2020年1月11日)

Migrationsbericht 2018: Migrationsentwicklung in der Stadt Halle (Saale), Halle (Saale), 2018, S.24-26.

xxxvi <http://www.halle.de/de/Verwaltung/Zielgruppen/Auslaender-und-Migranten/Auslaenderbeirat/> (最終閲覧：2020年1月11日)

<http://www.auslaenderbeirat-halle.de/> (最終閲覧：2020年1月11日)

xxxvii <https://vemo-halle.de/> (最終閲覧：2020年1月11日)

xxxviii <https://www.freiwilligen-agentur.de/> (最終閲覧：2020年1月11日)

xxxix <https://www.willkommen-in-halle.de/> (最終閲覧：2020年1月11日)

xl <https://www.willkommen-in-halle.de/vernetzen/welcome-treff/> (最終閲覧：2020年1月11日)

xli 2018年10月25日開催の会合に参加し、通訳、同行ボランティアを行うドイツ人・外国人女性の話を聞くことができた。

xlii <https://www.uni-halle.de/universitaet/geschichte/> (最終閲覧：2020年1月11日)

xliii "Halle: Moscheebesucher mit Diabolos beschossen", *Mitteldeutsche Zeitung*, 30/6/2018, (<http://islamicnews.de/2018/06/30/halle-moscheebesucher-mit-diabolos-beschossen/> 最終閲覧：2019年10月25日)

xliv „Stephan B. im Ausland geboren: Zahlreiche Verschwörungstheorien nach Anschlag in Halle“, *Mitteldeutsche Zeitung*, 12.10.2019, (<https://www.mz-web.de/halle-saale/anschlag-in-halle-saale/stephan-b--im-ausland-geboren-zahlreiche-verschwoerungstheorien-nach-anschlag-in-halle-33302638> 最終閲覧：2019年10月25日)

xlv Zöller, Walter, „Die Botschaft von Halle: 15.000 Menschen setzen starkes Zeichen“, *Mitteldeutsche Zeitung*, 21.10.2019, (<https://www.mz-web.de/halle-saale/anschlag-in-halle-saale/die-botschaft-von-halle-15-000-menschen-setzen-starkes-zeichen-33341656> 最終閲覧：2019年10月25日) など。